

全日本中学校長会賞

贈られた未来

富山県 高岡市立高岡西部中学校 二学年

上坂 大空

僕のばあちゃんは車の免許を持っていないので、いつも自転車をこいで何キロも離れた僕の家遊びに来てくれる元気な。パワフルばあちゃんです。実は二十年ほど前にガンを患って手術していたと母から聞いた時は、思わず知らず「えーうそやる。」と言ってしまったほど、今のパワフルなばあちゃんには病気が違った様子が全く感じられませんでした。

二十三年前、母が大学に入学したばかりの六月にばあちゃんにガンが見つかって即手術する事になりました。その時、母の兄は慶應義塾大学二年生で、さらにうちの母は双子で、二人そろって地元国立大学に入学した年なので一気にお金がかかる時期だったそうです。おまけに母のお父さん、僕にとつてのじいちゃんは東京で単身赴任中でした。精神的にも金銭的にも不安な事だらけで母は大学に入学した喜びも吹っ飛んでしまい、ただ、ただ毎日泣いていたそうです。

手術の説明を聞くために、じいちゃんが東京から帰ってきた時、ばあちゃんがかけていた生命保険の担当の方が手続きをするために来られました。母は、あの時の事は一生忘れないだろうと言って話してくれました。保険の担当者の方は、うなだれている母に、

「なんにも心配する事ないよ。早くしつかり治してお母さんに元気になってもらおうね。成人式の着物着たとこ見てもらわんなんね。」

と言って励ましてくれたそうです。母は、ばあちゃんに病気を治して元気になってもらいたいという前向きな気持ちを自分が失くしていた事に気づかされたと同時に、ばあちゃんのために自分ができる事は何でも一生懸命やってあげようという決意の背中を押してもらったように思えたそうです。僕は保険の担当者の方は、保険の手続きだけをするために来たのではなく、心のケアもしてくれた事に驚きました。そして、本当にばあちゃんが保険に入っていて良かったと思いました。もし、ばあちゃんがたった一人でガンと闘っていたら心が折れていたかもしれません。保険の担当者の方の応援によって、僕の母が元気を取り戻し、毎日毎日かかさず病院に通ってばあちゃんを励まし応援する事ができたから治療もうまくいったのだと思います。そう考えると、保険は治療費のサポートだけではなく、精神的サポートの役割も大きく果たしているのだと改めて感じました。ガンの治療費は未だに高額です。あの時ばあちゃんが保険に入って

第56回中学生作文コンクール

いなかったら十分な治療を受けられなかったかもしれません。母も成人式を見てもらえなかったかもしれません。僕が今こんなに元気なばあちゃんと花火を見たり、トランプをしたりして楽しい時間を過ごせるのは奇跡のようです。奇跡をおこしてくれたのは、まぎれもなく保険と心のサポートをしてくれた担当の方のおかげです。

学校の先生が以前、僕たち子供は若木で、根っこである家族に支えられてくすくと育っていきけるんだよと教えてくれました。僕はその家族をさらに支えてくれたのが、大地のような保険だと思いました。

保険から贈られた僕たち家族の未来に感謝して、今ある幸せな日々を一日一日大切に過ごしていきたいです。そして、将来僕にも新しい家族ができれば、家族の幸せを守るため、明るい未来を家族に贈るために、しっかり保険に入っておこうと思いました。

うちのばあちゃんの口ぐせ、「備えあれば憂いなしやちや。」が我が家の名言です。